



新型コロナウイルス感染症と夏の感染症

前号に引き続き**新型コロナウイルス感染症**を取り上げます。日本国内では患者数増加の勢いが5月に低減し、それに伴ってSocial distanceを目的とした様々な措置や自粛要請が緩和されつつあります。しかし、**世界での患者発生数は更に急増**していて、前号では約606万人としていた患者数が、6月30日現在で約1027万人(死亡約50万人)となりました。この1か月間で400万人増加し、遂に1000万人を超えました。国別では米国約259万人(死亡約12.6万人)、ブラジル約137万人(死亡約5.8万人)、ロシア約64万人、インド約55万人、英国約31万人、ペルー及びチリ約28万人の順となっています。米国は患者数増加の勢いが衰えるどころか、ここに来て日々新たに発生する患者数は4万人を上回り、これまでで最多を宥進しつつあります。ブラジルはこの1か月間で患者数が約50万人から81万人に増加しました。中南米の国々は、大半の国で患者数の急増がみられていて、アフリカ諸国はこれから本格的に患者数が急増していくのではと危惧されています。

感染症と闘ってくれている
医療関係者の皆さん、ありがとう。



感染が怖い...
それは医療関係者も同じ。
それでもみんなの命を守るため、
新型コロナウイルスと闘っている人から、
みんなが感謝とエールを
送れる社会であってほしい。

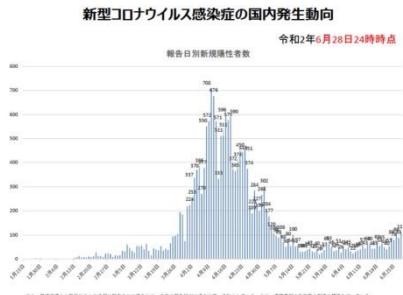


図1. 新型コロナウイルス感染症の国内の発生動向
(厚生労働省ホームページ:
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_000001.html)

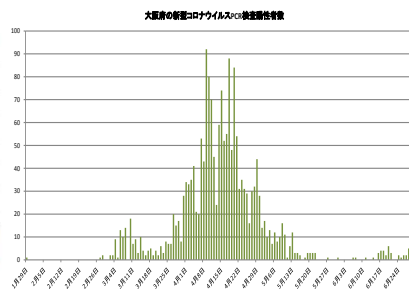


図2. 大阪府の新型コロナウイルスPCR検査陽性者数の推移(2020年1月29日より)

一方、わが国の累積患者発生数は18,476人(6月30日現在)で、5月中旬以降患者発生数は減少していましたが、6月中旬以降はやや増加傾向にあります(図1)。また、大阪府の累積患者発生数は1,821例であり、6月中旬以降は**大阪府でも継続的に患者発生**がみられるようになってきています(図2)。東京では1週間の患者発生数が300人を超えてきており、7月に入って再び全国的な流行に発展していく可能性は否定できません。

次に、例年夏期に流行する感染症についてです。図3は2004年以降の日本国内での**手足口病**の流行状況の年別・週別の推移を示したグラフです。手足口病は例年7月に流行のピークを迎える感染症ですが、2020年の患者発生数は1999年の発生動向調査開始以来最少の水準をこれまで推移しており、これは新型コロナウイルス感染症の流行対策を目的とした長期間に渡る学校・幼稚園の休業、Social distanceの影響によるところが大きいと考えられます。また、手足口病と同様に飛沫感染、接触感染を感染経路とし、夏期に流行のピークがある咽頭結膜熱、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ等の感染症も2004年以降では例を見ないほど低い流行水準でここまで推移しています。

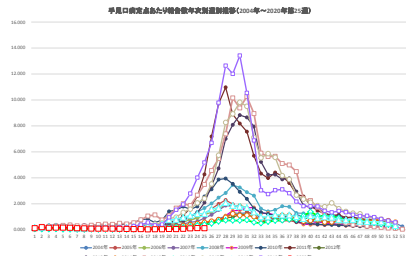


図3. 手足口病の定点当たり報告数の週別推移(2004年～2020年第25週)

2020年の夏は、新型コロナウイルス感染症の対策により、ヒト・ヒト感染によって例年この時期に流行する感染症は抑えられていると良いと思われませんが、新型コロナウイルス感染症に対しては全く油断はできないと思われまます。
(感染管理室 安井良則)

ICT/AST合同勉強会開催 ～新型コロナウイルスと向き合う～



感染症指定医療機関でない当院において、新型コロナウイルス感染症に対してどのように対応してきたのか、その経緯を振り返り、第2波・第3波に向けて病院全体で取り組んでいけたらと考えております。参加できなかった方は、医療安全のインシデント報告システムより動画視聴が可能です。

(感染管理室 川口尚子)

ICT/AST合同勉強会

テーマ: 『新型コロナウイルスと向き合う』

感染症指定医療機関でない当院において、新型コロナウイルス感染症にどのように対応してきたのか、その経緯を振り返り、第2波・第3波に向けて取り組んでいけたらと考えております。参加できなかった方は、医療安全のインシデント報告システムより動画視聴が可能です。

日時: 2020年6月26日(金) 17時30分～18時30分

会場: 西棟13階体育館
社会的距離を確保した定員100名とさせていただきます。
(※敷きシートをご用意ください)

主催: 病院職員

プログラム

特別講演①
『新型コロナウイルス感染症とその対策』
安井 良則 医師 (感染症室 室長)

特別講演②
『新型コロナウイルス感染症との戦い』
上田 哲也 医師 (呼吸器科 副部長)

協賛: 大阪府済生会中津病院
協賛: 大阪府済生会中津病院
協賛: 大阪府済生会中津病院